

# 田中家通信



株式会社 田中家石材  
VOL. 43  
発行 株式会社 田中家石材  
住所 彦根市高宮町106-1  
電話 0749(24)5000  
HP http://www.tanakaya-sekizai.com/  
Mail info@tanakaya-sekizai.com

## 初盆



人が亡くなって初めて迎えるお盆のことを「新盆」、あるいは「初盆」と呼びます。故人が仏になって初めて里帰りするということで、近親者は盆ちようちんを贈り（現在ではお供えとして現金を包むことが多いようです）、初盆を迎える家では身内や親しい者を招いて僧侶にお経をあげてもらい供養されることもあります。

## 先祖と食事

お盆に里帰りをされたときに、お仏壇、お墓参りは大切なことですが、もう一つ大切なことがあります。それは、家族がそろってお仏壇の前で一緒に食事をし、その団欒の中で、それぞれの近況を語り合い、特にご先祖や故人の生前の話を覚えていく限りしてあげて、ともに食事をするのがご先祖に喜んでもらえる大事なことです。

## お盆の効用

お盆は、過去の慣習を知らず知らずのうちに学ぶ大切な機会です。

特に旧盆は、久しぶりに故郷へ帰る人も多いでしょう。子どもは、おじいちゃん・おばあちゃんに会い、都会では味わえない田舎の風景、お墓参り、忘れがたい印象を焼きつけて帰ります。

特に、皆でお墓参りをし、故人の思い出を語り合うことは大変に意義のあることで、自分たちの先祖に対し自然に手を合わせることを身をもって教える良い機会です。

お墓参りになかなか行けない人も、日頃の感謝の気持ちをご先祖に伝えましょう。家の事情でお墓やお仏壇を置いていない家族も多いようですが、お盆の間だけでも先祖・故人への気持ちを大切にしてお手合わせしてみませんか。

## 「故人への後悔」

大切な家族を亡くされて、悲しみにくれ、後悔ばかりされておられる方がおられます。

「こうすれば良かった。あんなことを言わなければ良かった。」……。

仏様になられた故人は、家族・身内に感謝されておられる事はあっても、生前のいろいろな事にこだわってはおられないと思います。逆に毎日、悲しんで過ごしている家族に対して心配されていると思います。元氣な姿を見せる事が故人を安心させる、成仏していただく事になるのではないのでしょうか。

それでもなかなか難しいときは、お仏壇や故人の前で「私は元氣で過ごしています。心配しないでね。」と毎日、声に出して言ってみてください。「言葉」は自身の心を少しずつ良い方向に変えていくと思います。

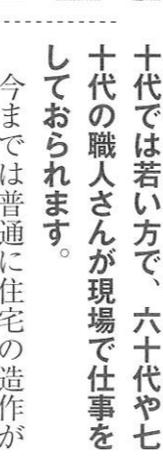
浄土真宗では全てのご先祖は、阿彌陀如来の功德によってすでに往生しているのだから、ご先祖に感謝することによって、「阿彌陀如来」への報恩感謝をします。お盆の意味にちなんで、ご先祖に感謝をし、浄土をしのびたいものです。

## 「お墓をさわる」と崇る?

死者は「怖い」供養しなければ「崇る」などといった間違った考え方や、「靈感商法等の脅し」などの情報の氾濫から、私たちが昔からずっと守り続けてきたお墓の本質を忘れつつあります。

これだけは覚えておいていただきたいのですが、お墓は絶対に崇りません。考えてみてください。もしあなたがお墓に入った時、お墓を新しくされたり、きれいに改祀された時、家族に感謝することはあっても、お墓の建て方や祀り方が気に入らな

## 「職人が無くなる日」



今から二、三十年前は、大工さん・石工さん・左官さんなど日本家屋を建てる上で必要な職人さんが沢山おられました。私が修行をした四十年前も、全国から集まった同世代の仲間が何十人もいました。しかし今は一人か二人、0人の年もありません。親方に叱られながら厳しい修行をすることに耐えられない。元から魅力を感じない。などの理由で職人を目指す人が少なくなりました。いえ、いなくなつたと言ってもいいでしょう。今、現役で頑張っておられる職人さんも高齢化していて、五



十代では若い方で、六十代や七十代の職人さんが現場で仕事をしておられます。今までは普通に住宅の造作ができていたことが、社寺仏閣専門の宮大工さんに頼まないとできない状況になっていきます。これらのことは、日本の伝統的な技術を将来に残せないというところであり、歴史的な建物は、おろか、一般的な日本家屋の修復も出来なくなります。国が若い人に職人の魅力を伝え、そして育てるシステムを作ることが急務だと痛感する次第です。

## 「待つ姿勢」



先日、新聞の寄稿欄に「待つ姿勢」の大切さとして載っていました。その方は公務員時代の先輩に「慌てて決断するどころなことではない。時間を友達に生きるのだ。」と言っておられたそう、夫婦や知人のいさかいでも話し合えばいいというものではない。余計な一言を言っ

て相手を怒らせることもよくあること。悩みの相談を受けた時にも、急いで助言するよりも、良く聴いて相手が自然に結論を出

## 「人生、心呼吸」

呼吸をする時、すつてから、はきますか？  
はいてから、すいますか？  
はいてから、すいた方がたくさんすえます。人間は、「オギャー」とはいて生まれ、そして、すつて亡くなります。  
お医者さんが臨終の際、「息をひきとりました。」と言われます。まさに、はけなくなつた時、人生の終焉を迎えるということ。人が人生を終える時に残るものは、「物」「心」を含め集めたものではなく、与えたものであると思えます。集めたものは、いづれ誰かのものになるか、取られてしまいます。与えたものは、その場所に、その人の心に残り続けます。その事が、心呼吸の「はく」事ではないでしょうか。

